

Choosing Wisely Japan

Newsletter

医療における“賢明な選択”を目指して

Vol.2 (May 2019)



巻頭言に換えて

ヘルスケアの持続可能な発展のために：

医療職にも患者・市民にも求められる熟慮と選択

2016年10月に設立を宣言した Choosing Wisely Japan (CWJ)は、早くも2年半を経過し、私たちの活動も少しずつ知られるようになってきました。一方、私たちが設立以来目指してきたものの、なかなか実現できていない課題も少なくありません。年号も変わり、今年の秋にはCWJも丸3年を迎えます。

Choosing Wisely キャンペーンは、これまで幾つかの日刊紙でも取り上げられて国民のヘルスリテラシーの向上に幾許か寄与しただけでなく、主要な実業誌がヘルスケアをわが国の社会経済的問題として取り上げる中とも言及されるなど、多方面から注目されるようになってきました。その一方で、センセーショナルリズムに傾いた週刊誌で不正確な健康情報に交じって取り上げられてしまうリスクもあり、メディアからの取材依頼に対しては慎重さが必要、と感じることもありました。幸いなことに、わが国では「過ぎたるは、なお、及ばざるがごとし」との箴言を通じて、“本当に必要な医療かどうか、一度立ち止まって考え直そう”との呼びかけは、一般国民にも比較的受け入れられやすいようです。

Choosing Wisely キャンペーンの本旨が共同意思決定(SDM; Shared Decision Making)であることについては繰り返し強調してきましたが、やはり最も重要な点は、医療者も患者・家族も“熟慮”に“熟慮”を重ねて一つの“選択”に至るところにあると思います。“選択”の結果は事後的にしか分からないので、“良い”選択であったか否かもさることながら、“熟慮”のプロセスも同様に重要です。

このように考えていくと、Choosing Wisely というフレーズが最初に登場し

目次

ヘルスケアの持続可能な発展のために……………	1
2017年度総会を開催……………	2
「医学のあゆみ」連載……………	3
会員の取り組み……………	4
Choosing Wisely 研究班……………	4
公開フォーラム……………	4
CWJ2018年主な活動……………	6

たのが、「Choosing Wisely: The Responsibility of Physicians, Patients and the Health Care Community in Building a Sustainable System」(「賢明な選択: 持続可能なシステムを築くための医師、患者、医療界の責務」)という米国内科専門医機構財団の年次フォーラムのテーマであったことが思い出されます。ここで用いられている“sustainable”(持続可能な)というキーワードも“熟慮”に当たっての重要な要素であり、一人ひとりの患者・市民に、自分の目の前にある個別の健康問題だけでなく、21 世紀に生きる地球市民としてのライフスタイルそのものも問われていることを示しています。

「持続可能な開発目標(SDG; Sustainable Development Goals)」というのは国際連合が掲げた 17 の国際行動目標(2016～2030)ですが、私たちの Choosing Wisely キャンペーンを推進するに当たっても、賢明な選択と私たちの生活全般が将来にわたって持続可能であることとの深いつながりについて考えていく必要があるように感じています。(代表・小泉俊三、2019年5月)

2017 年度総会を開催しました

2018年8月25日に、東京大学伊藤国際学術研究センターにて、「Choosing Wisely Japan 2017 年度総会」を開催しました。北海道から九州、沖縄まで、文字通り全国から参加がありました。参加して下さった皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

2017年度の活動報告および会計報告の後、副代表の徳田安春先生が「過剰診断～最近の話題」と題して講演されました。日本の医師 940 人に対して、日常診療で行われている検査のうち“過剰”と思う割合を尋ねたところ、20% (中央値)にも上りました(Soshi M, et al. J Gen Fam Med. 2018; 19: 42.)。また、がん検診の有効性を証明するための条件を「より多くのがんが見つかる」や「がんの5年生存率が延長する」と誤って回答した人が半数近くいました(Soshi M, et al. J Gen Fam Med. 2018; 19:70-1.)。こうした誤解が、過剰な検査の一因となっている可能性があるのではないのでしょうか。

代表の小泉先生は、「Choosing Wisely キャンペーンのこれまでの歩みと現在」と題して講演されました。Choosing Wisely キャンペーンのルーツは、米国内科専門医機構財団など3団体による「新ミレニアムにおける医のプロフェッショナリズム: 医師憲章」にあります。そして、医師憲章には、プロフェッショナルの責務として「有限の医療資源の適正配置に関する責務」も含まれています。小泉先生は、Choosing Wisely の立脚点は「医療プロフェッショナリズム」と「EBM」であることを強調されました。

さらに、会員の庄子万能先生が学生委員会の活動報告を行い、医学生・研修医版の「5つのリスト」を紹介しました。最後の質疑応答では、Choosing Wisely Japan の将来的な計画などについても話し合われました。(北澤 京子)

「医学のあゆみ」に連続コラムを掲載しました

2018年4月～9月の半年間にわたり、「医学のあゆみ」誌に連載コラム「Choosing Wisely キャンペーンとは」を掲載しました。以下に、各号のタイトルと執筆者を示します。ご執筆いただいた先生方、どうもありがとうございました。

- (4/14) Choosing Wisely キャンペーンは何をめざしているかー序にかえて
小泉俊三(Choosing Wisely Japan 代表、東光会七条診療所)
- (4/21) 日本の Choosing Wisely
徳田安春(群星沖縄臨床研修センター)
- (4/28) Choosing Wisely と High Value Careー価値に基づいた医療への ACP の取組み
上野文昭(大船中央病院)
- (5/12) Choosing Wisely と診療ガイドライン: Minds の役割
山口直人(東京女子医科大学)
- (5/19) Polypharmacy 序論: オーストラリア NPS MedicineWise の取組みと CW
山本美智子(昭和薬科大学)
- (5/26) Polypharmacy1: 病院のポリファーマシー外来
矢吹拓(国立病院機構栃木医療センター)
- (6/9) Polypharmacy2: 診療所でのポリファーマシー対策
北和也(やわらぎクリニック)
- (6/16) 患者・市民の立場から 1: 「5つの質問」を対話のきっかけに
北澤京子(医療ジャーナリスト、京都薬科大学)
- (6/23) 患者・市民の立場から 2: “賢い患者”をめざして 28年目の活動
山口育子(認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML)
- (7/14) 感染症診療の Choosing Wisely
忽那賢志(国立国際医療研究センター)
- (7/21) 画像検査の Choosing Wisely
隈丸加奈子(順天堂大学)
- (7/28) インターネット時代のヘルス・リテラシーーメディカルノートにおける Choosing Wisely を啓発するための取組み 井上祥(株式会社メディカルノート)
- (8/18) 医学生・研修医による Choosing Wisely のうねりー当たり前を問い直す
荘子万能(総合病院南生協病院)
- (8/25) EBMの立場からみた CW: Choosing Wisely はどれだけ役に立っているのか 南郷栄秀(東京北医療センター)
- (9/8) 世界に広がる Choosing Wisely キャンペーン: 医療における過剰使用問題の解決に向けた共通の取組み
Karen Born, Wendy Levinson(University of Toronto Department of Medicine)
翻訳: 早川直希、荘子万能、梶有貴、小泉俊三

会員の取り組み

DPC 対象病院から保健所へ

岩手県一関保健所(岩手県立中部病院) 星 進悦

DPC 準備病院から DPC 対象病院になり、さらなる経営努力のため DPC 委員会委員長として Choosing Wisely キャンペーンを導入した。包括診療となる検査や薬物療法の効率化を迫った。しかし、医療判断を主に行う医師への情報提供は忙殺され有効ではなかった。医師自らが実施している医療行為の妥当性に疑問を抱くかどうかが決り手であった。日常診療の惰性を打破するには何らかの契機が必要ではあることは間違いない。厚労省は一つの方法として高額薬剤の適正使用を勧告している。

今回保健所へ再就職となった。行政では収益はないので税金活用の効率化が求められる。地方では規制よりも振興が重要である。対人保健のほか公衆衛生上の指導のためのエビデンスが必須である。医療現場の行動変容を促すためには従来通り負のエビデンスの発信だけでは不十分と断言できる。行動経済学、ナッジ理論に基づく心理学的作戦を練るなどブレイクスルーを考える必要があると想いを巡らせている。

Choosing Wisely の研究班ができました

2019 年度より、厚労省「診療ガイドラインへの「Choosing Wisely」の導入に向けた研究」班がスタートしました。

本研究班では、Choosing Wisely に関する内外の情報を収集すると同時に、今後、日本で Choosing Wisely を普及・実装していくための基礎的な課題に取り組むことになっています。まずは、米国の各学会が公表している Choosing Wisely の推奨が、日本の診療ガイドラインにどの程度言及されている(あるいは、されていない)かを、文献的に調査する計画です。

Choosing Wisely 公開フォーラムのご案内

5月18日(土)に京都で、5月19日(日)に東京で公開フォーラムを開催します。両日とも予約不要、参加無料です。皆様ぜひご参加くださいませ。

<公開フォーラム @ Kyoto> Choosing Wisely: 持続可能な医療をめざして

日 時 : 2019年5月18日(土) 13:30~16:30(13:00開場)

場 所 : 芝蘭会館本館 稲盛ホール(京都市左京区吉田近衛町)

予約不要、入場無料

プログラム(敬称略):

はじめに	中山 健夫(京都大学)
Overuse of Healthcare Resources	Iona Heath(Past President, RCGP, U.K.)
高価値医療をめざして	栗原 健(浦添総合病院)
日本におけるChoosing Wisely	小泉 俊三(Choosing Wisely Japan)
討論	(司会) 中山 健夫、小泉 俊三

主催: 厚生労働行政推進調査事業「診療ガイドラインへの「Choosing Wisely」の導入に向けた研究」班

<公開フォーラム @ Tokyo> 患者と医療者のための医薬品情報 ~くすりの適正使用に向けたChoosing Wisely~

日 時 : 2019年5月19日(日) 13:30~16:30 (13:00開場)

場 所 : 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター1階 国際会議室

予約不要、入場無料

プログラム(敬称略):

はじめに	徳田 安春(Choosing Wisely Japan)
Overuse of Healthcare Resources	Iona Heath(Past President, RCGP, U.K.)
患者向け医薬品情報と薬剤師の役割	森 和彦(厚生労働省)
研究班報告(山本班)	山本 美智子(熊本大学)
	佐藤 嗣道(東京理科大学)
研究班紹介(北澤班)	北澤 京子(京都薬科大学)
討論	(司会) 小泉 俊三(Choosing Wisely Japan) 山本美智子

主催: AMED医薬品等規制調和・評価研究事業「患者・消費者向けの医薬品等情報の提供のあり方に関する研究」班/

Choosing Wisely Japan 2018 年の主な活動

- 1 月 25 日 CWJ ニュースレターVol.1 発行
- 2 月 26 日 日本薬学会@金沢 シンポジウム「医療における賢明な選択(choosing wisely)と shared decision making: 薬剤師に期待される役割」
- 4 月～ 「医学のあゆみ」(医歯薬出版)で連載コラム「Choosing Wisely キャンペーンとは」スタート(9 月まで)
- 4 月～ 「日経メディカルオンライン」(日経 BP 社)で連載コラム「Choosing Wisely を読み解く」スタート(継続中)
- 6 月 2 日 ACP 日本支部年次総会@京都 セッション「Choosing Wisely キャンペーンと医のプロフェッショナリズム教育」
- 6 月 23 日 ジェネラリスト教育コンソーシアム@沖縄 「日常臨床に潜む hidden curriculum—professionalism は学習可能か？」
- 9 月 24 日 日本薬剤師会学術大会@金沢 分科会 19「今日から実践できるポリファーマシー対策」
- 8 月 25 日 Choosing Wisely Japan 2017 年度総会@東京大学
- 9 月 10～12 日 International Forum on Quality & Safety in Healthcare@メルボルン(オーストラリア) 「Be Aware of Overuse of Healthcare—“Choosing Wisely”」
- 10 月 20 日 Choosing Wisely International@チューリヒ(スイス)
- 10 月 27 日 京都伏見 CKD 地域連携セミナー@京都 講演
- 11 月 1 日 Choosing Wisely キャンペーンのスターター・キット日本語版を発行
- 11 月 25 日 医療の質・安全学会@名古屋 シンポジウム「Choosing Wisely Japan の最前線その 2: 画像診断と Interventional Radiology をめぐる医療職と患者・市民の対話」
- 12 月 2 日 日本プライマリ・ケア連合学会近畿大会@京都 特別講演「21 世紀の持続可能な医療のために ～Choosing Wisely キャンペーンと医のプロフェッショナリズム～」

2019 年 5 月 10 日発行

Choosing Wisely Japan

606-8142 京都市左京区一乗寺燈籠本町 24 番地

TEL: 075-354-5176 E-mail: choosingwiselyjapan@gmail.com

Copyright ©Choosing Wisely Japan